

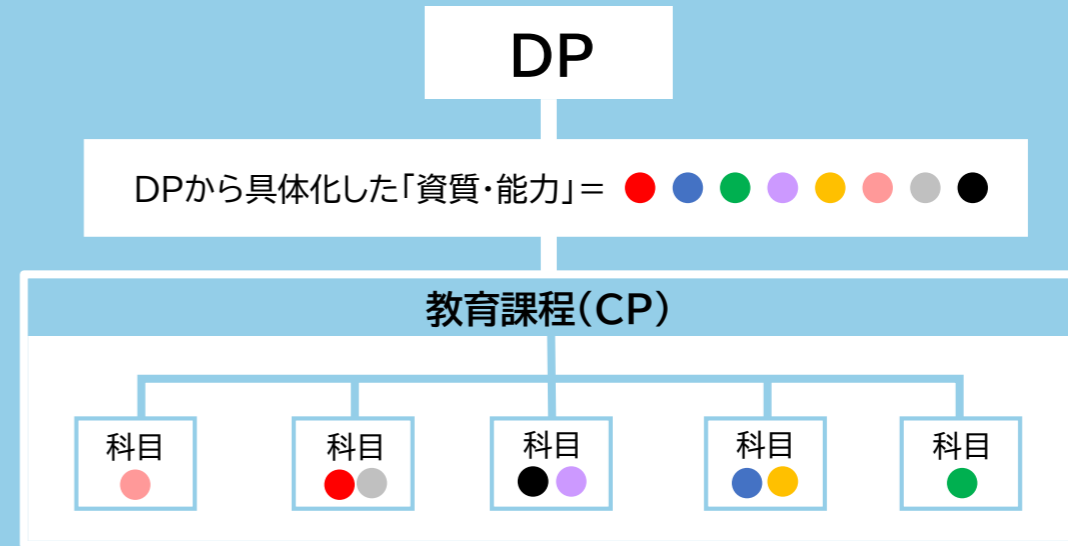
ディプロマ・ポリシー (DP) を「8つの資質・能力」として具体化

本学では、学生自身が何を身に付け、何ができるようになったかが明確になり、学生が成長を実感できる「学修者本位の教育」の実現に向けて、取組を進めています。

学生の学修目標の具体化および卒業時に最低限備わっている能力の保証として機能するよう、ディプロマ・ポリシー(DP)を具体的かつ明確に設定することは、教学マネジメントの重要な基盤のひとつです。

令和3年度は、DPを学生にとってわかりやすく測定可能な資質・能力に要素分解し、「8つの資質・能力」を定めました。

今後は、「学修者本位の教育」のための順次的・体系的な教育課程を編成し、特色ある教育を行っていく予定です。各授業科目における学生の「8つの資質・能力」の修得度(=学修成果)を成績評価等で測定し、学生が自ら学修ポートフォリオ等でふりかえることによって学びの状況を確認し、成長を実感することが可能となります。

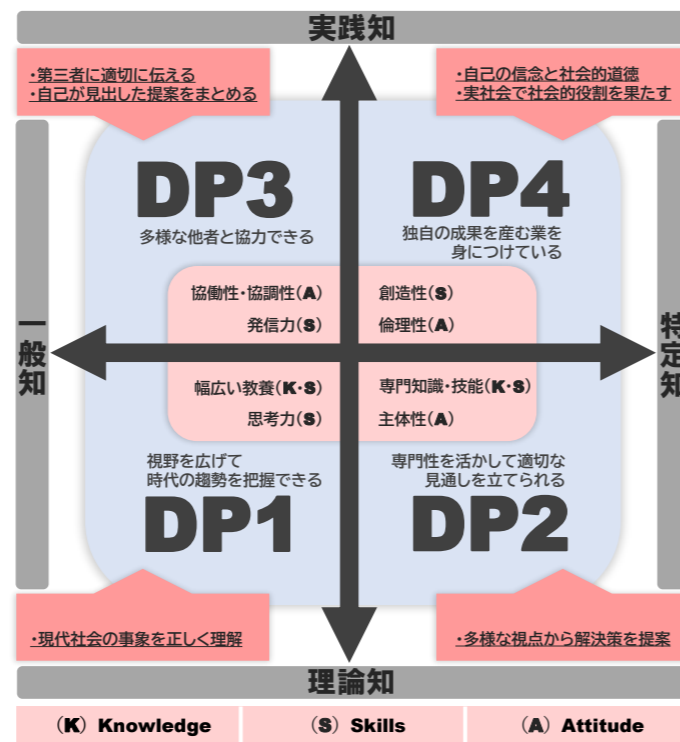


【図1】「資質・能力」に基づく教育課程の編成イメージ

全学DPからキーワードを抽出

DP1	DP2	DP3	DP4
現代社会で起きている事象において、それを正しく理解するための能力を有すること	修得した知識をもって、解決すべき課題に対して、多様な視点からアプローチし解決策を提案することができること	自己が見出した提案をまとめ、第三者に適切に伝えることができること	自己の信念をもち、社会的道徳観に基づいて、実社会で自らの社会的役割を果たす能力及び意志をもつこと

キーワードを元に分析



全学共通の「8つの資質・能力」を定義

全学共通の「8つの資質・能力」			
	全学共通の「資質・能力」	定義	詳細
DP1	思考力	多面的、客観的、論理的に考える力	様々な情報を収集、比較、関連づけたり、独自の視点で統合したり、論理的に評価したり、正しく評価できているか検証したりすることができる。
	幅広い教養	特定の専門分野の枠を超えて共通に持つべき基礎知識や考え方	人文・社会・自然科学分野の諸科学の基礎知識や考え方を備えている。特に、グローバル化や科学技術の進展等の社会の変化に対応できる基礎知識や考え方を備えている。
DP2	専門知識・専門技能	特定の学問分野の理論、概念、方法等に関する知識や技能	特定の学問分野に根ざした、もしくは特化した、知識および技能によって、その分野の専門性を理解・判断することができる。
	主体性	自らの考えに基づいて行動する力	多様な視点から、自ら解決すべき課題を発見し、修得した知識・技能等を課題解決に活用したり、継続的に改善、更新することができる。
DP3	発信力	自らの考え、物事を第三者に適切に伝える力	第三者に口頭、文章、グラフィックス等、適切な表現方法を用いて自らの考え、物事を伝えることができる。
	協働性・協調性	他者と積極的に関わることができる力	多様な他者を受容し、議論の対立に対応したり、建設的な雰囲気醸成したり、特定の目的・目標のために共に行動したり、物事を分担するなど、他者と積極的に関わることができる。
DP4	倫理性	社会的役割を自覚し責任を持って行動する力	学問分野の社会的な意義、役割、影響力を認識した上で、個人の幸せやよりよい社会の実現のために責任を持って行動することができる。
	創造性	自らの信念を持って一定の成果を提示する力	修得した学問分野の知識・技能等を活かし、新たな知識や価値を生み出したり、問題解決の糸口を見つけたたり、解決することができる。

【図2】京都産業大学全学ディプロマ・ポリシー(DP)と「8つの資質・能力」の対応関係